

令和元年度「実践推進校研究事業」 発表

学校と関係機関の連動した支援体制の整備



田中小学校のマスコットキャラ
『朝え顔くん』です。



三木町立田中小学校

1 本校の概要(特認校・コミュニティ・スクール)

- 児童数 101名(小規模校)
- 教職員数 23名(特別支援学級担任3名 支援員4名)
- 通常学級 6学級
- 特別支援学級 3学級(知的障害, 難聴, 自閉症・情緒障害)
- 通級指導教室(週1回・毎週金曜日) 3名通級
- 特認校制度 6名
- 放課後デイサービス事業・保育所等訪問支援事業
利用児童 4名
- 個別の教育支援計画及び個別の指導計画作成
特別支援学級児童 6名
通級指導教室児童 3名





サマースクール



家庭・地域が協働するコミュニティ・スクール



英語活動

マラソン大会
浮いて待て

特認校



和太鼓発表

タブレット
学習



2 本校の研究

平成31年度 研究テーマ

自ら学び, 自ら考え, 明るい未来を切り拓いていく児童の育成

○主体的・対話的で深い学びの推進 ○カリキュラム・マネジメントの確立 ○自ら正しく判断し行動できる力の育成

～そのために大切なこと～

- (1) ユニバーサルデザインの視点や対話を取り入れた授業づくり
- (2) 個別の教育支援計画, 個別の指導計画の見直しと活用
- (3) 関係機関との連携

実践してきました。



令和2年度 研究テーマ

自ら課題を見つけ, 生き生きと学び合う児童の育成

- 1 主体的・対話的な学びを深い学びにつなげる授業の在り方の研究
- 2 みんなが安心して過ごせる規律ある落ち着いた学校・学級づくり

3 実施の内容

- (1) ユニバーサルデザインの視点や対話を取り入れた授業づくり
 - ・ 特別支援学級での実践
 - ・ 通常学級での実践
- (2) 個別の教育支援計画, 個別の指導計画の見直しと活用
 - ・ 障害児支援利用計画等と連動した計画の作成について
 - ・ 配慮を要する児童に関する通常学級での個別の支援メモについて
- (3) 関係機関との連携
 - ・ 放課後等デイサービス事業所, 学校, 保護者, 関係機関等による支援について
 - ・ 保育所等訪問支援事業所, 学校, 保護者, 関係機関等による集団生活への適応のための支援内容について



3 (1)ユニバーサルデザインの視点や対話を取り入れた授業づくり

特別支援学級 みどり・あおば・ふたば組
生活単元学習・自立活動

覚えやすい
フレーズ

すてきな
たなかっこに
なるために

「**た**のしく **な**かよくなるために **か**んがえよう」

授業者

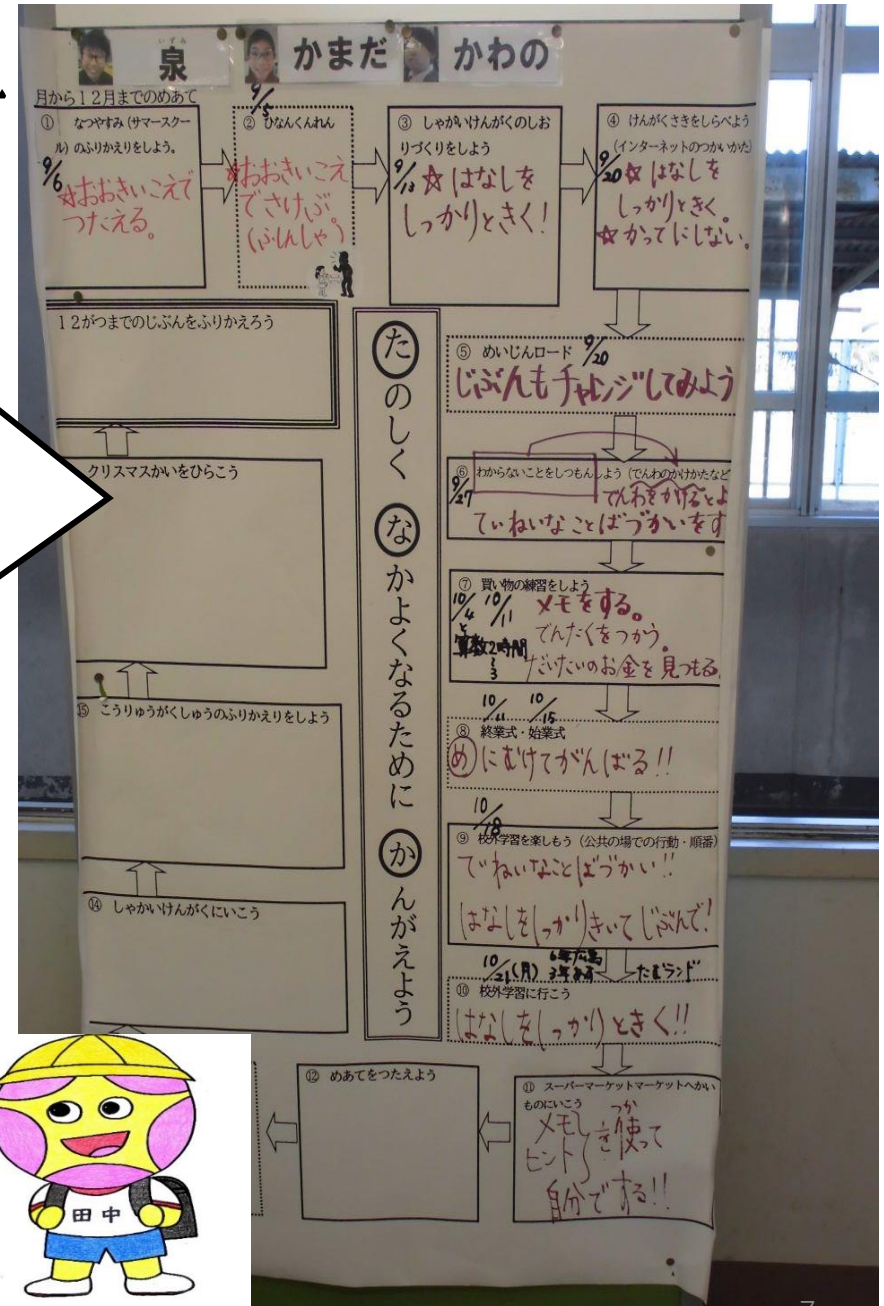
松岡布美花(生活単元学習)

間島大輔(自立活動…自閉症・情緒障害)

岡本芳子(自立活動…難聴)



特別支援学級 みどり・あおば・ふたば組



9月～12月の単元構想図

(児童)

- 各学期ごとに見通しを持ち、学習を進めることができる。
- 前時や行事ごとに学んだヒントが一目で振り返ることができる。
- 楽しいことに向かっていくという目標がもちやすい。

(教師)

- 各学期ごとに見通しを持って進めていくことができる。
- 個々の課題に向けて支援することができる。



特別支援学級 みどり・あおば・ふたば組



ICT機器の活用

(みどり組)

- 導入時にタブレット端末でコンビニエンスストアが作成しているコンビニエンスストアの説明動画を見せることにより、買い物の練習への意欲を高めた。

(ふたば組)

- 事前に保護者に依頼し、タブレット端末でビデオレターを撮影しておき、買い物練習へ行く前に見せることにより意欲を高めた。また、保護者の画像を繰り返し見ることにより、買う物の確かめにも役立てた。



ICT機器の活用

(あおば組)

- ワークシートで場面を取り上げた時には、状況が想像しやすいようにその内容に合わせた動画をテレビで見せ、分かりやすくした。



板書

個々の目標を分かりやすく表示する。

- ・ 全体の目標に向けて, 自分のめあてをもてるようにする。

学習の流れ

見通しをもって行う。

- ・ 可視化することにより落ち着いて学習できるようにする。

特別支援学級 みどり組(生活単元学習)



場の設定

翌日に行くコンビニエンスストアに似た品物の配置や写真の提示・置いてある品物をリサーチし、準備をした。

- ・初めての場で緊張や高揚が多く見られ、集中しにくい児童には、本当に学んでもらいたいことに重点をおくため、同じような環境を設定して安心して学習に取り組めるようにする。

場の設定

買い物の練習の当日に使うワークシートと同じ物を準備をした。

- ・一人ひとりに合わせたワークシートを準備し、何度も用いてメモの取り方や計算の予測を身に付けられるようにする。

特別支援学級 みどり組(生活単元学習)

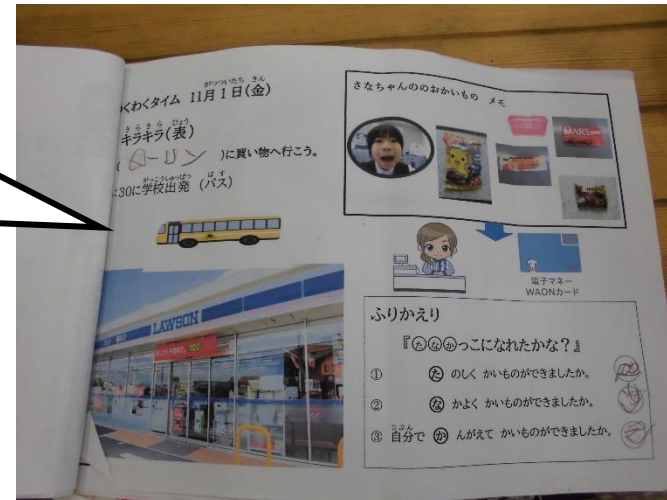


場の設定 品物の写真によるマッチング

- ・ 買い物の経験が少なく、言葉が出ない児童は、品物の写真を多く準備し、マッチング練習から始め、買いたい品物とのマッチングにつなげた。

場の設定 写真と合わせたワークシート作り

- ・ 買う物を表示したワークシートを作り、しなくてはならないことを分かりやすくした。



特別支援学級 あおぼ組(自立活動)



板書

個々の目標を分かりやすく表示する。

- 全体の目標に向けて、自分のめあてをもてるようにする。

場の設定

板書と合わせたワークシート作り

- スーパーでのルールを見直し、自分が身に付けなければならないルールを見つけやすくし、ヒントブックに残せるようにした。

特別支援学級 ふたば組(自立活動)



板書

個々の目標を分かりやすく表示する。

- 全体の目標に向けて、自分のめあてをもてるようにする。

場の設定

翌日に行くコンビニエンスストアの品物の値札の付け方や写真の提示, 置いてある品物をリサーチし, 準備をした。

保護者からのメッセージを写真に残し, 表示することで意欲化を図ると共にふり返りがすぐに行えるようにした。

わくわくヒントブック

(児童)

- ・ 自分の学んだことや自分へのヒントを書き込めるようにしている。
- ・ ワークシートをA4サイズの横の大きさに設定して、ファイルはA5サイズにし、リュックに入れたり、手に持ったりと持ち運びやすいものにした。
- ・ ヒントが増えるごとにヒントの貯金が増えていき、目に見える楽しさを味わっていけるようにした。



(教師)

- ・ 個々の課題に向けて支援を継続し、何か同じようなことが起こったときには、そのことが書かれているところを開き、一緒に振り返るようにした。

3 (1)ユニバーサルデザインの視点や対話を取り入れた授業づくり

通常学級 3年赤組



算数 「かけ算の筆算」

授業者
山本 祥太



通常学級 3年赤組

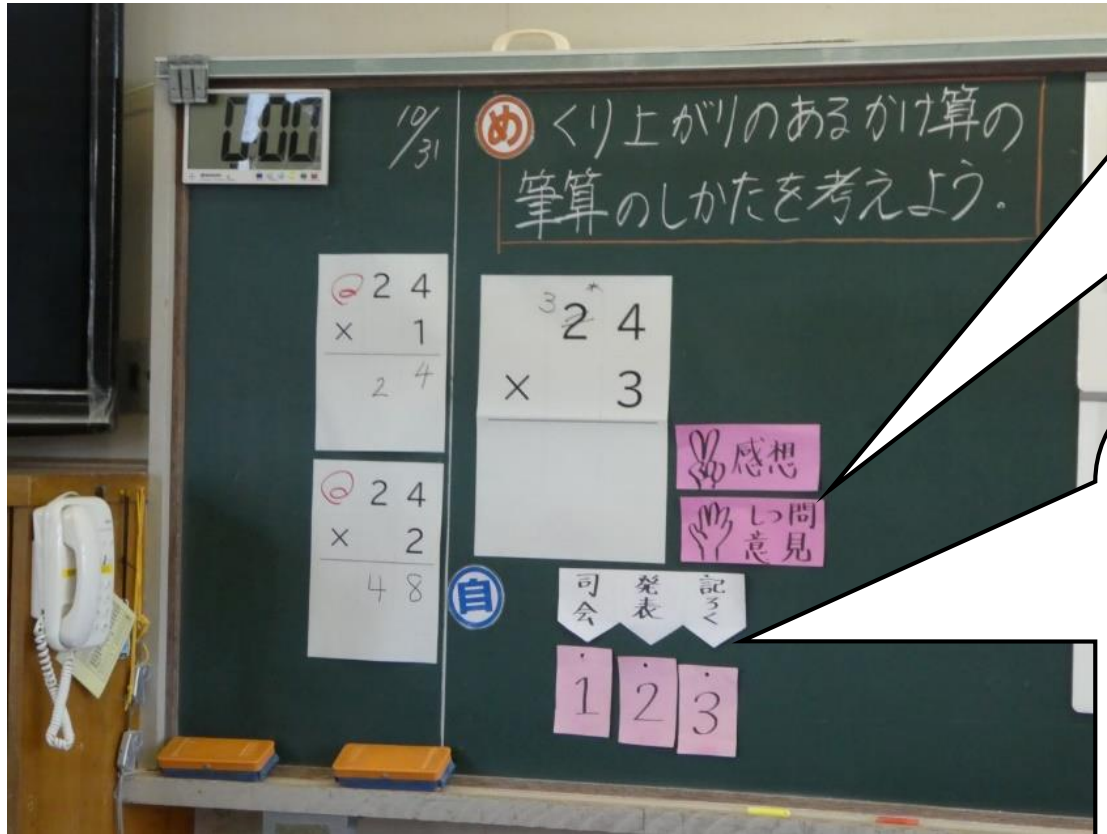


板書

見やすく分かりやすいすっきりとした板書。

- ・ 『めあて～「個→グループ→全体」～まとめ』の学習の流れを分かりやすくした。
- ・ グループ活動にはまなボードを用い、子どもたちが書いたものがそのまま提示できるようにした。

通常学級 3年赤組



発表の工夫

指のサインで分かりやすくする。

- 大きな声を出して、表現しなくても分かるようにした。

グループ活動の工夫

子どもたちの座席番号により、今日の活動で何の係をするかを表示している。

- グループ活動の際には常に実施し、取り組めるようにした。

通常学級 3年赤組



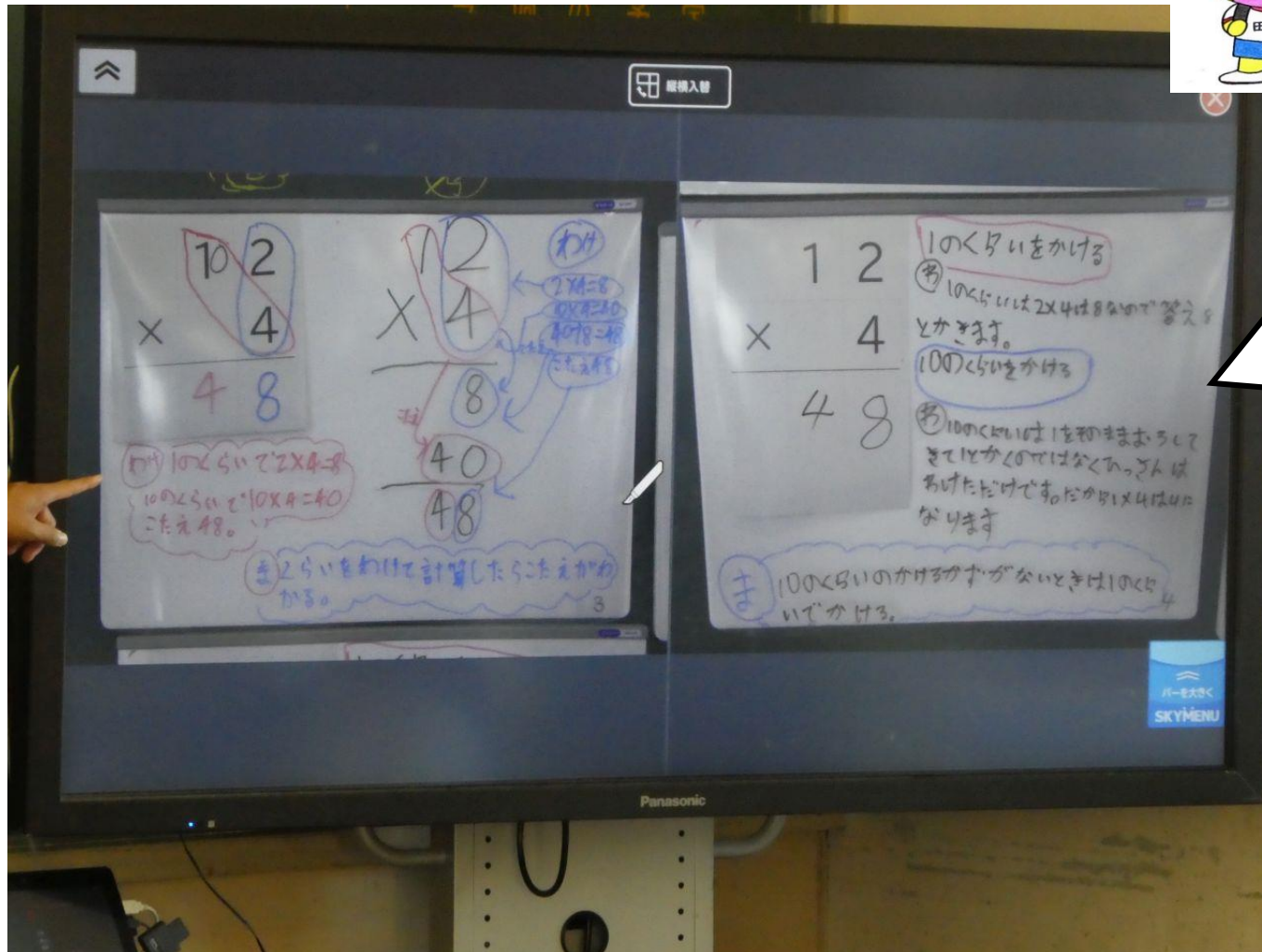
学習の流れの表示

電子黒板を用いて、学習の流れを提示している。

- ・ 今、何をしているかがよく分かり、あとどれくらいがんばれば良いかの見通しをもつことができる。
- ・ 安心して学習できる環境を作っている。

まなボードの活用

発表の時にも用いる。



ICT機器の活用

電子黒板やタブレット端末を用いた。

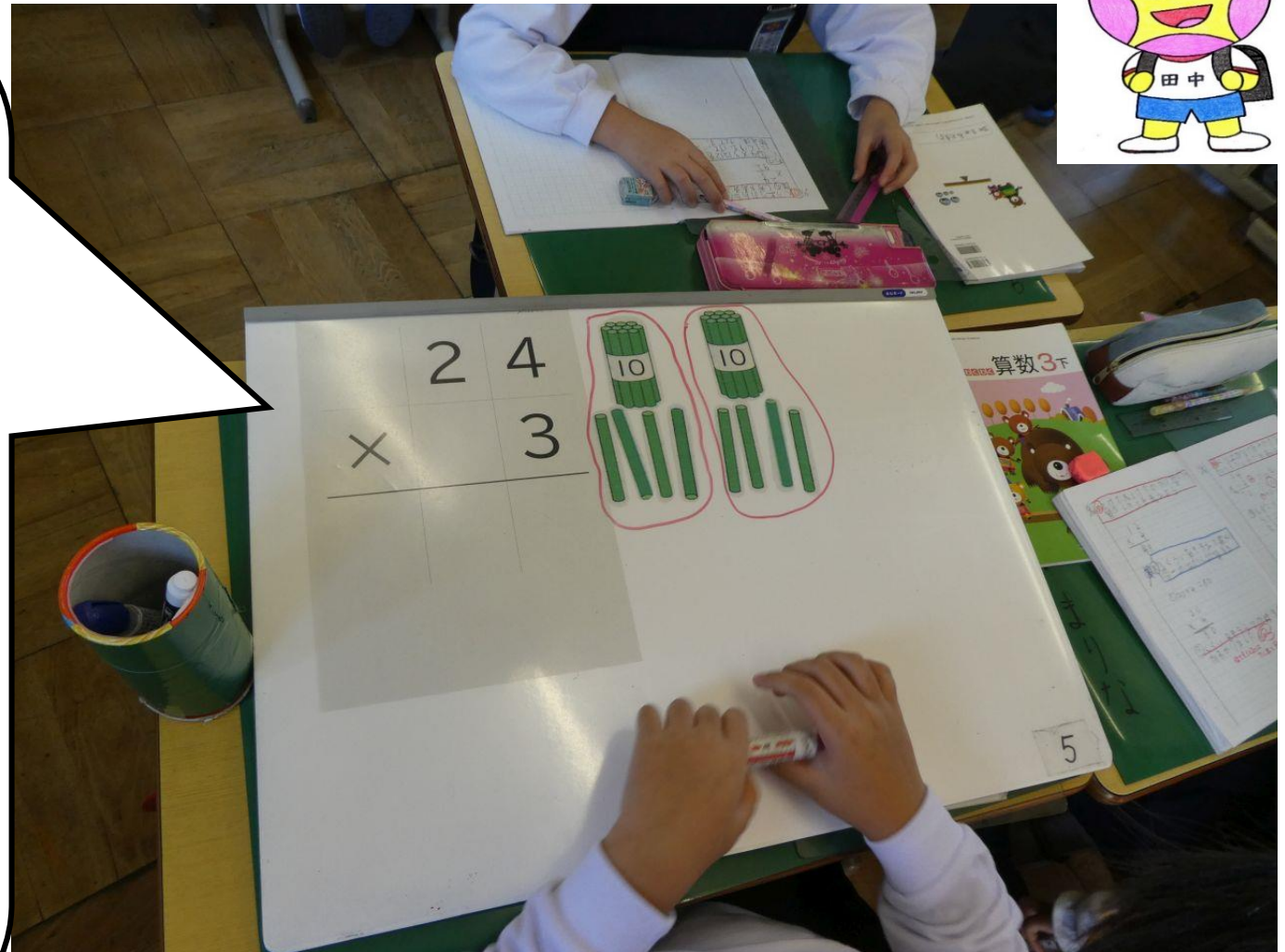
- ・ タブレット端末で撮影した子どもたちの考えを2画面で比較し、考えやすくした。



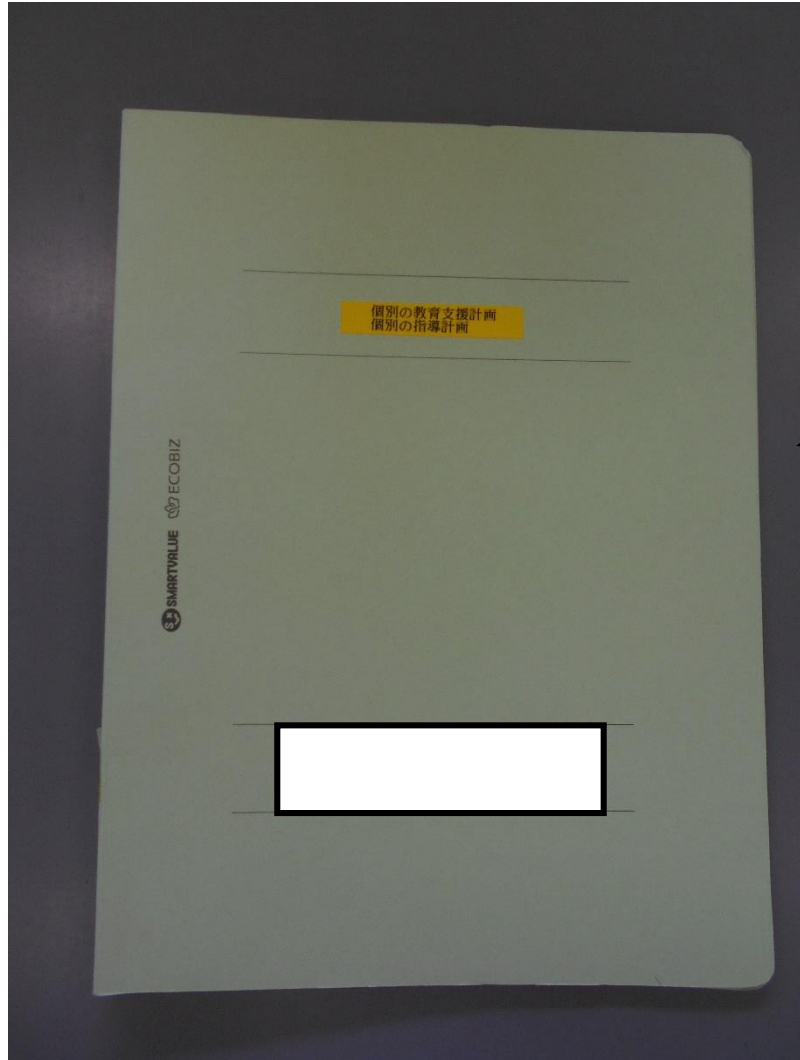
まなボードの活用

グループ活動の際に有効に活用した。

- ・ 薄いビニールをめくって問題紙等をはさみ、ビニールをかぶせるとその上にホワイトボード用のペンで考えを書くことができる。
- ・ 消したり、囲んだりするのもしやすく、考えがまとめやすい。



(2) 個別の教育支援計画, 個別の指導計画の見直しと活用 ～障害児支援利用計画等と連動した計画の作成について～



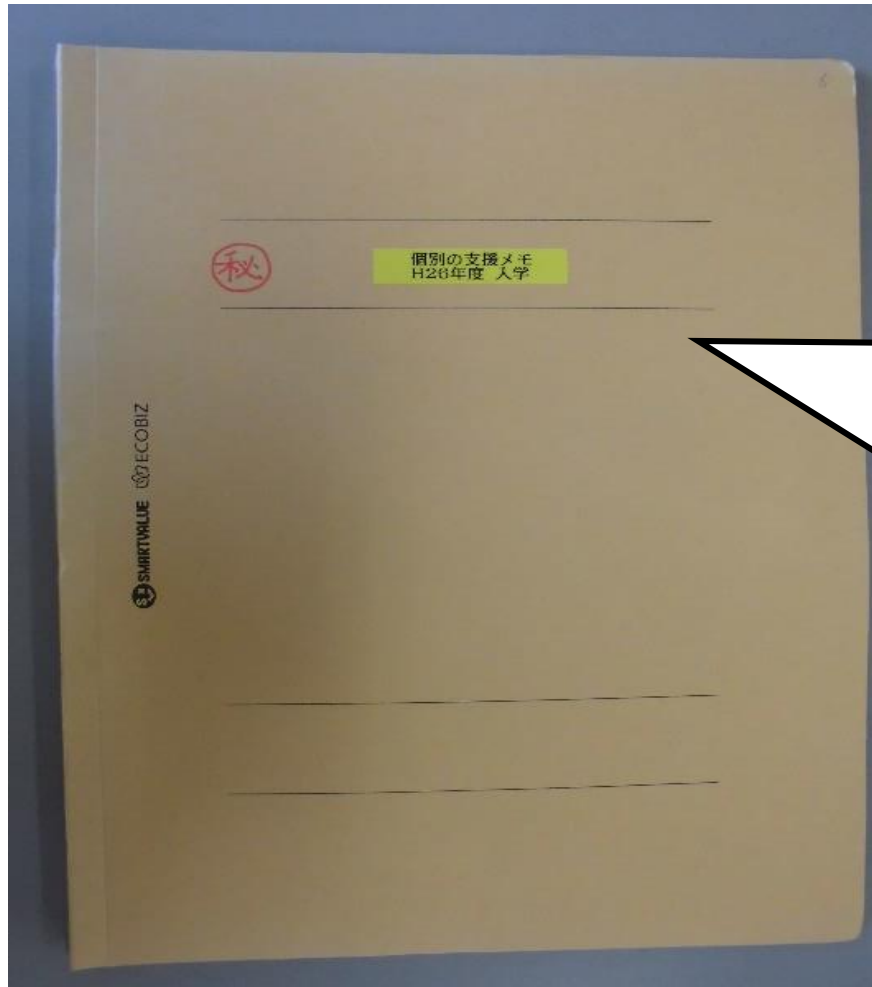
情報共有

デイサービスでの利用計画と比較し、教育で行う支援と福祉で行う支援との連携を図れるようにしている。

- ・ ケース会で相談しやすい関係づくりが大切になってきている。
- ・ ケース会以外でも大きな変化や困りごと・方針の転換等が行われた場合には電話等で連絡を取れるようにしている。



(2) 個別の教育支援計画, 個別の指導計画の見直しと活用 ～通常学級に在籍する配慮を要する児童に関する個別の支援メモについて～



情報共有

通常学級に在籍する配慮を要する児童のための個別の支援メモ
(学級単位)を全学年対象で作成した。

(3) 関係機関との連携



大学等との連携

学校保健委員会(PTA対象)

7月4日(木)

演題 「子ども一人ひとりの育ちを見つめて」

講師

香川大学教育学部附属坂出小学校校長 坂井 聡 さん

大学等との連携



- ・ 教師自身が変わることから
コミュニケーションとれているの
かな?と考えることから
→まず自分が分かるように伝え
ていたかを確認する。

視点を変えなきゃ



- ・ 子どもたちはどう考えているのだろうか。
技術をもてば見えるかも?
→授業の見直し
 - 時間配分 ○ 分かりやすい板書
 - ノートの書く量の厳選
 - 分かりやすい発問 ○ タイマー等の利用
- ・ 子どもが何を苦手としていて、何に困っているのか
を考えてみる。
障がいにとらわれていないだろうか?
→教師が障がいにならぬように
 - いろいろな視点から見る。
 - すること, しなくてはならないこと, しなくても
大丈夫なこと等の個にあわせた厳選。
 - 担任一人で抱え込まない。職員間や関係機
関との連携

(3) 関係機関との連携



児童福祉機関との連携

職員研修会(教職員対象)

8月26日(月)

演題 「愛着障害を抱える児童への支援について」

講師

香川県子ども女性相談センター 竹内 健文 さん

児童福祉機関との連携



田中小学校として

保護者との信頼関係の確立

- ・ 子どもが家庭で学校のよい話ができるような環境作り
- ・ 協力体制をとる
 - 先生批判には裏がある。保身は見破られる。
- ・ 保護者にも子どもと同様に「一貫・応答・共感」
 - 保護者の不安軽減。

とにかくしっかり話を聞く学校の体制を作る。

支援は長期的な視点が必要

信頼感をもてる人が複数で、人生の様々な場面においてくれるとよい

→学校の先生はその大きな一部分となる

誠実な思いは伝わる

→100伝えたことが15ぐらいしか伝わらないもの

→まずは聞いてから伝える

ケース会での協議等について



【特別支援学級児童対象】

メンバー：管理職・特別支援学級担任・特別支援教育コーディネーター・保護者・関係機関 等

【通常学級児童対象】

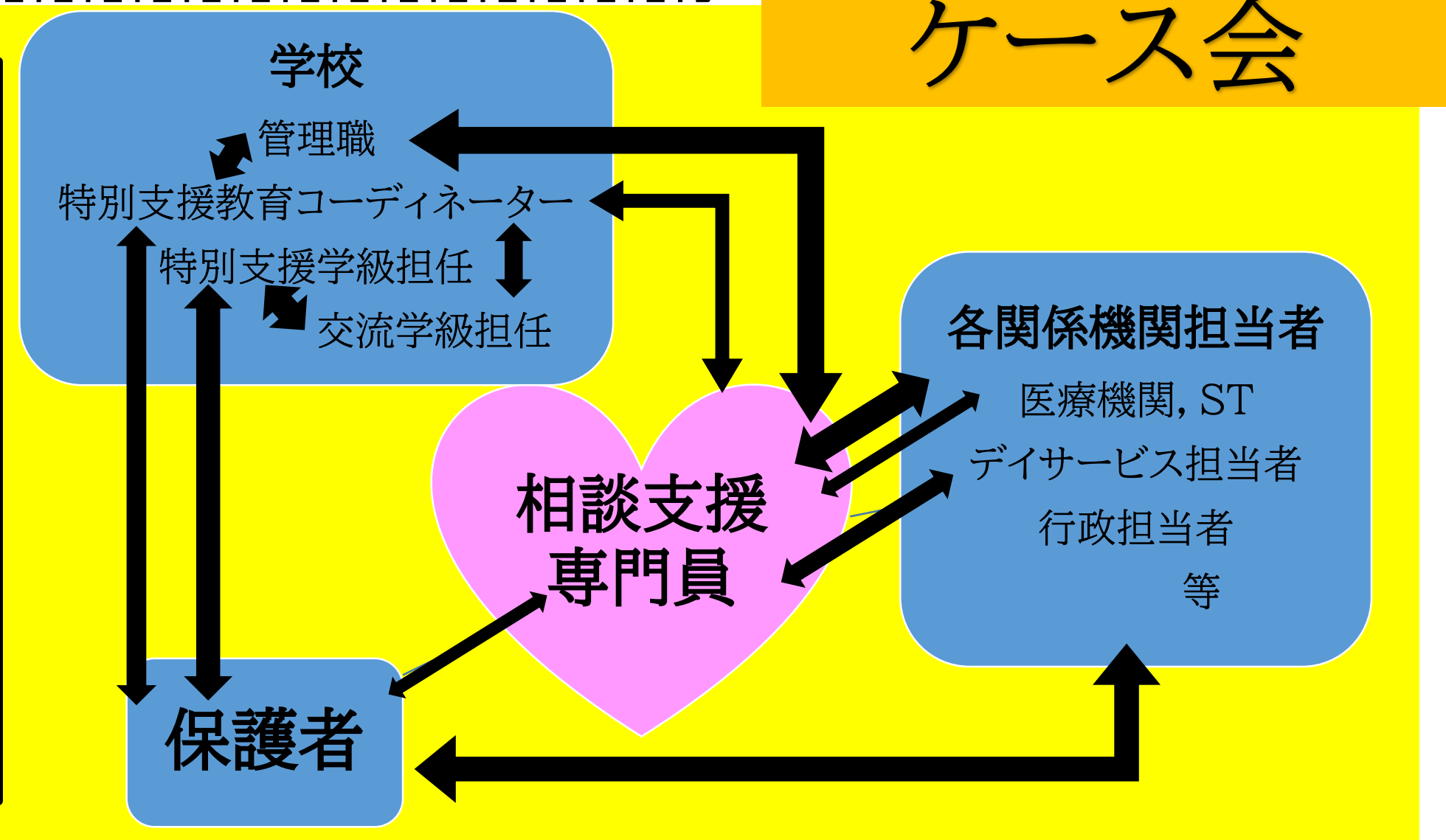
メンバー：**管理職・担任・養護教諭・(特別支援教育コーディネーター)** ⇔ 保護者・関係機関

ケース会の流れ(主に特別支援学級)

- (1) 相談支援専門員からの当該児の支援計画についての説明, 質疑
- (2) 学校での様子, 支援の状況
- (3) 各機関での様子, 支援の状況
- (4) 保護者から
- (5) 意見交換及び今後の対応へ向けての共通理解

ケース会実施の流れ(特別支援学級)

支援チーム



ケース会での協議の様子



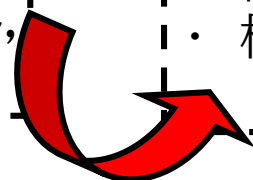
	学級	開催月	回数
A児	知的	R1.6月 12月 R2.6月 8月	4
B児	知的→自・情	R1.6月 8月 R2.8月	3
C児	自・情	R1.6月 R2.3月	2
D児	知的	R2.3月(入学前) 8月	2

関係機関等とのつながりを強くする。

保護者の同意の上、同じ方向性で連携を図れるようにしている。

小さなことでも関係機関との連絡が取りやすく、相談し、保護者への情報も共有して統一してできやすい。

- ・ 情報共有をする。
- ・ 児童にチームとして関わられるようにする。
- ・ 保護者をしっかりとサポートできる体制を作る。
- ・ 保護者も相談しやすい環境を作る。
- ・ 相談しやすい関係性を作る。



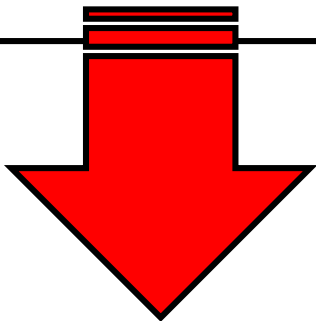
保育所等訪問支援事業利用の様子

松原病院 臨床心理士佐伯先生の訪問

1・2ヶ月に一度訪問と懇談(年間4人利用)



- ・ 見取りから支援の内容を決めて、活用する。



- ・ 支援センター(くすのき)での児童の様子等を含めた保護者との連携を図っている。
- ・ 訪問日には児童の授業を参観していただき、授業での様子や教材の取り入れ方等のご指導をしていただける。
- ・ 最近の学校での様子や保護者との聞き取り等による家庭での状況を照らし合わせ、課題解決に向けての話し合いを行う。
- ・ 困ったこと等があった際には特別支援教育コーディネーターを通して連絡し、訪問をお願いしたり、電話連絡をしたりしている。
- ・ 懇談内容についても個別のファイルにとじていくようにしている。

関係機関との連携における 個別の計画作成と見直し

例

ファイル I (基礎情報)

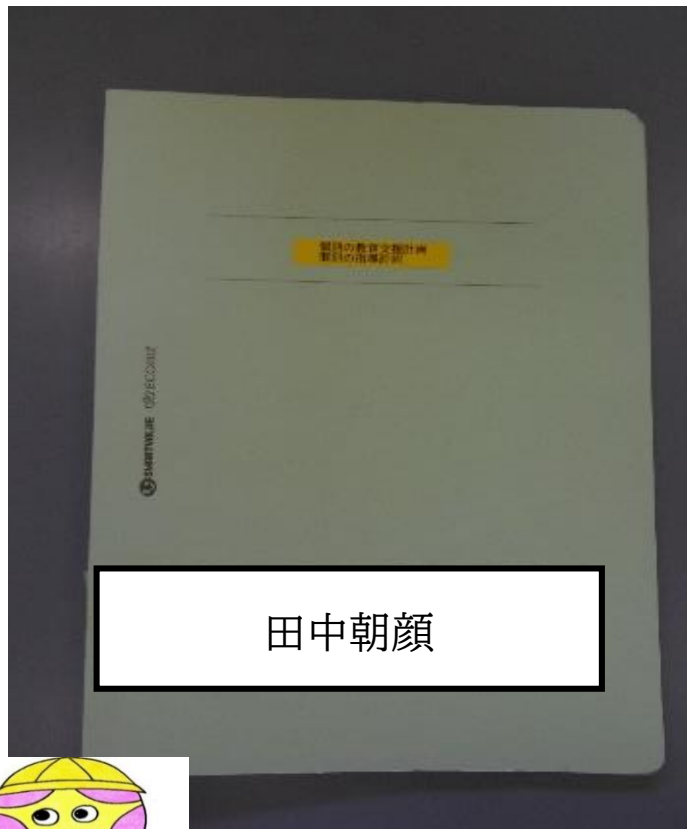
初記入年月日 (令和 9年7月20日)

ふりがな氏名	たなか あきがお 田中 朝顔	性別	女	生年月日	令和 3年 3月 3日	
ふりがな保護者氏名	たなか いちよう 田中 銀杏	住所	〒761-0611 三木町田中4620-2			
		TEL	TEL087-898-0501			
家族構成	続柄	氏名	生年	続柄	氏名	生年
	父	田中 銀杏	H2. 2. 2			
	母	田中 蒲公英	H1. 1. 1			
	妹	田中 山茶花	R5. 5. 5			
備考						

相談のきっかけ	言葉が遅かったため 相談者 (母) 記載者 (母)			
幼児・児童・生徒の各成長段階における様態				記入者
各教育段階	よい点 (得意なこと・好きなこと)	気になる点 (苦手なこと)	配慮点	
3歳児 (3歳時に記入)	明るい 興味津々	言葉が遅い うろろうする		
就学前 (6歳時に記入)	見て真似ることができるようになってきた	じっとすることは苦手		
小学校(前) (小3修了時に記入)				
小学校(後) (小6卒業時に記入)				
中学校 (中3卒業時に記入)				
高等学校 (卒業時に記入)				
大専門学校 その他				

学校以外の関係機関を利用して、特別支援教育の専門性を上げていく。

・訪問日の指導の時間を捻出するために時間割変更をしたり、支援員の配置換えをしている。また、管理職の補欠も依頼している。



ファイルⅠ (基礎情報)

年月日	支援機関名	支援者名	様態像 (障害名・病名) 年月日・病院名・医師名	
			令和6年9月	ADHD 自閉症スペクトラム 中田病院 医師 中田 土筆
R6.9~	中田病院 ST	中田先生		
職			年月日	受診医療機関名
訓練歴			医療歴	
相談歴				
健診歴				
利用機関等				



氏名(田中 朝顔)

ファイルⅡ (長期展望と支援)



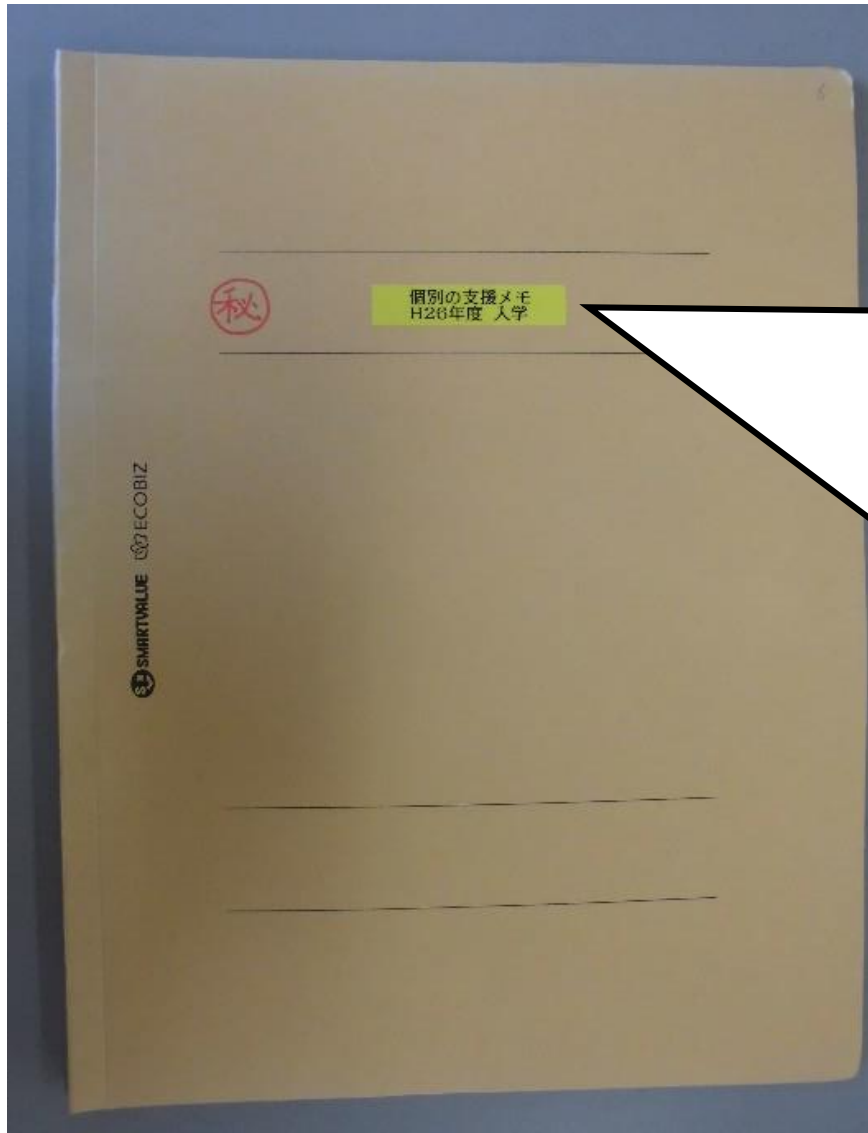
本人・保護者	支援の方針・内容・評価等		
願い・目標 (年月日)	家庭・学校等	教育・福祉・医療保健・労働等	機関・担当者名 (年月日)
友だちと関わりながら成長してほしい。 (R9.4.30) 楽しく過ごしながら成長したい。お話をたくさんできるようになる。 (R9.4.30)	<p>【方針】 気持ちや考えを相手に分かるように表すことができる。(R9.5.10)</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションが楽しいと思える活動を意識的に取り入れる。 教員が本人側で具体的な声かけをし、話し方や行動の仕方が分かるようにする。 書くことや話すことについては支援者を真似ることや繰り返し行うことからできるようにする。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から誰かに話しかけてコミュニケーションを取る機会が増えてきている。 語彙が増えてきているため相手に分かるように伝えられることも多くなっている。 どんどんと体験する機会を設け、語彙を増やし、活動や行動に意味づけをしながら言語表現と結びつける支援をしている。(R10.3.25) 	<p>【方針】 友だちへの個別の意識や関わりを促し、場所や場面が共有できるようにする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちや指導員などの名前が意識できるように紹介や呼びかけを行う。 設定活動の中で自分から友だちに声をかけられたり、友だちから声をかけられたりしたときにやりとりができるように行動を促す。(R9.5.1) 	<p>中田病院 中田西瓜 (R9.5.1)</p> <p>田中小 中(R10.3.25)</p>

年月日	支援機関名	支援者名	名称	種別・級	年月日	備考
6.8.10	田中ビネー知能検査V 測定不能 (中田病院)	臨床心理士 中田西瓜	手帳等			

各種福祉サービス受給状況
放課後デイサービス

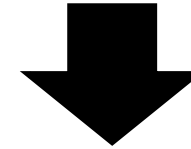
教育諸機関在籍歴			
期間	校園(所)名	期間	校園(所)名
~R9.3	田田保育所		
R9.4~	三木町立田中小学校		

個別の支援メモの作成



課題

- ・ 支援の必要な子に指導計画を作れない。



保護者と共有したことや教師間の対応の仕方の情報共有のツールとして

各クラスに

『個別の支援メモ』を作成

通常学級での配慮を要する児童に対しての情報共有について

令和元年度 個別の指導メモ()



現在の状態	健康面・生活面	常に元気に走り回っている。外遊びが好きである。 欠席することはほぼない。 好き嫌い少なく、給食はたくさん食べる。時間内に終わらせられないこともある。 片付けが苦手で、机の周りは汚い。汚くても平気である。他の教室に入り、ちよっかいをかけることもある。	リーダーシップを取ることを好む。自分の気持ちを素直に話すことがで苦手である。 友だちに指摘する際には乱暴になったり、暴言を吐いたりすることも少なくない。友達と一緒に活動を好み、活発である。嫌なことがあると大きな声を出すことがある。 時間を意識することは可能だが、守ろうとするのは難しい。		
	学習の状況	国	学年相応の内容(◎ ○ △)	備考	学年相応の学習を進めている。概ね習得できている。漢字の書き取りが苦手。脱字が目立つ。
		算	学年相応の内容(◎ ○ △)	備考	学年相応の学習を進めている。概ね習得できている。
		その他	国語算数以外の教科に関しても学年相当の学習を習得できている。技能教科においてもほぼ習得できている。45分の集中力持続は難しい。		
指導の方向性と実態の分析	WISC-IV(全検査IQ、言語、推理、ワーキングメモリー、処理速度) 柔軟に試行錯誤することは苦手とする。一つ一つのことをこつこつと積み上げ努力していく学習習慣を身につけさせたい。認めてもらいたい気持ち強いので、自己高揚感を高めさせるため何気ないことも褒めていき、認めていきたい。				
教科学習	今年度の目標(長期目標)		1学期の目標	2学期の目標	
	学年相応の学習を進める。45分間集中できるようにする。(離席を少なくしていく。)学習の準備物を整えることができる。けじめをつけて学習に取り組む。		だんだんと少なくていく具体的な約束をし、連絡帳にチェック表を貼り、シールで確認できるようにし、達成できるようにしたい。 保護者との連携を図り、家庭でも認められるツールとした。		
	机上の整理整頓。最後まで根気よく課題に取り組めるようにする。暴力や暴言が0になるようにする。思いやりを持ち、友達と協力しながら活動できる。		だんだんと少なくていく具体的な約束をし、連絡帳にチェック表を貼り、シールで確認できるようにし、達成できるようにしたい。 暴力・暴言があった際には、しっかりと話を聞き、家庭やSSW・SCにつないでいきたい。		
生活面その他			1学期のふり返り(10月)	ふり返り(3月)	
次年度に向けて					

教師間の情報共有のツールとして

- ・ 個の状況や支援方法等一貫した指導や支援ができるよう担任や特別支援教育コーディネーターが作成し、学期ごと等に長期・短期目標作成する。
- ・ 保護者(連絡帳のコピーや電話等の内容)や関係機関とのやりとりもとじるようにしている。担任交替の際にも共有しやすい。見返しやすい。
- ・ 学期始めや学期末に見直し・作成をし、全教職員に回覧している。気になることがあれば自由に書き込むこともできる。(全教職員の共通理解)
(ぶれない支援や指導)

通常学級での配慮を要する児童に対しての情報共有について



※このリストは、香川県医師会のご協力いただいた医師、小児科、精神科など非連携機関の診療を行っていると考えられる県の医療機関を対象にアンケート調査を実施し、調査の結果に基づいて作成しています。お問い合わせは、各医療機関にお問い合わせください。

番号	医療機関名	診療を行っている	医療的支援を行っている			診療科名	診療対象年齢	相談・療育等について その他 備考 ※コ)・・・コ)・メディカルスタッフ	所在地
			治療	相談・療育支援	診断書等				
1	大川 三好医院	○	○	○	○	小児科	0歳～社会人等 コ) OT、保育士 ・個別保育トレーニング ・OT訓練 ・小児神経専門医による発達相談 ・放課後等デイサービス	東かがわ市大谷813-1 0879-4 http://www	
2	大川 さぬき市民病院	○	○	相談	○	精神科 心療内科	コ) 臨床心理士 ・相談は、医師、臨床心理士、MSW	さぬき市町川町石田東甲387-1 0879-4 http://www	
3	大川 苅子メンタルクリニック	○	○			精神科	コ) 臨床心理士、精神保健福祉士	さぬき市志摩2383番市1 087-87 http://www	
4	大川 田中小児科	○				小児科	0歳～中学生	さぬき市長尾名10-8 0879-52 https://ita	
5	高松 香川大学医学部附属病院	○	○	○	○	精神科神経科	コ) 臨床心理士	木田郡三木町大字池戸1760-1 087-891-2 http://www	
6	高松 すくすくクリニックこにし	○	○	○	○	小児科 小児神経科	コ) 臨床心理士、OT、保育士 ・発達相談、発達相談、教育相談 ・保育園、幼稚園、学校との連携 ・OT指導（感覚統合訓練等、個別及びグループ指導） ・補修指導治療	木田郡三木町大字永上20 087-813-78 http://www	
7	高松 あんどう発達クリニック	○	○	○	○	小児神経内科	0歳～社会人等 (社会人等は主に継続) コ) 臨床心理士 ・発達相談（医師による個別相談） ・教育相談（医師による個別相談、学校訪問） ・家族会（情報交換、勉強会） ・臨床心理士によるSST等（ABA、ST、OTを併用）	高松市多紀下町517-10 087-821-10 http://www	
8	高松 礎島クリニック	○	○	相談		精神科	コ) 臨床心理士 ・個別相談	高松市高松町二丁目3-8 087-862-51 http://www	
9	高松 いわき病院	○	○	相談	○	心療内科	コ) 臨床心理士、OT、精神保健福祉士	高松市番町街113-1 087-879-353 http://www	
10	高松 えないメンタルクリニック	○	○	○	○	精神科 心療内科	コ) 臨床心理士 ・コミュニケーション教室	高松市鏡光町649-8 087-813-161 https://www	

1 / 5 ページ

保護者との連携を図るために

- 保護者に相談を受けた際にはいろいろな連携機関の情報をとじているため話をしやすくしている。

4 成果

- ・ユニバーサルデザインに視点をあてた研究協議，授業改善の推進。
- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成。
- ・交流学級の担任と共通理解。
- ・職員研修の場で全教職員での共通理解。
- ・保護者を通じて，事業所のコーディネーターにケース会開催の連絡調整を依頼した。
- ・ケース会を7回実施。
- ・関係機関，保護者，本校職員による連携協力。



5 今後の課題

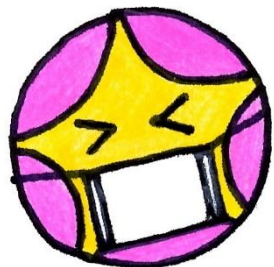


- 関係機関とのケース会の意義を職員へ周知。
- ケース会の実施時期を柔軟に設定。
(年間の見通しをもって)
- 年度当初に実施し、個別の教育支援計画や指導計画につなぐ。
- 引き続き、月に1回程度の保育所等訪問支援事業を実施し、担任一人で抱え込まず常に協力できる体制を築いていく。

ご静聴ありがとうございました。

これからますます寒さが厳しくなります。新型コロナウイルス感染症のみならずインフルエンザにも気をつけてください。

田中小 朝え顔



朝え顔

ハロウィンバージョン

